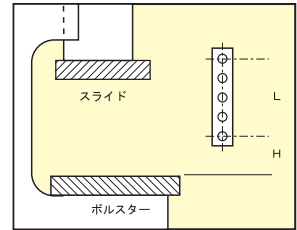


別表2 プレス機械におけるリスク低減対策の例（光線式安全装置の主な事例）

(1) 防護高さの不足によるリスク

光線式安全装置の最下光軸をボルスターと同一の高さとし、さらに防護高さの最低基準として「ストローク長さ+ダイハイト」以上として取付ける。

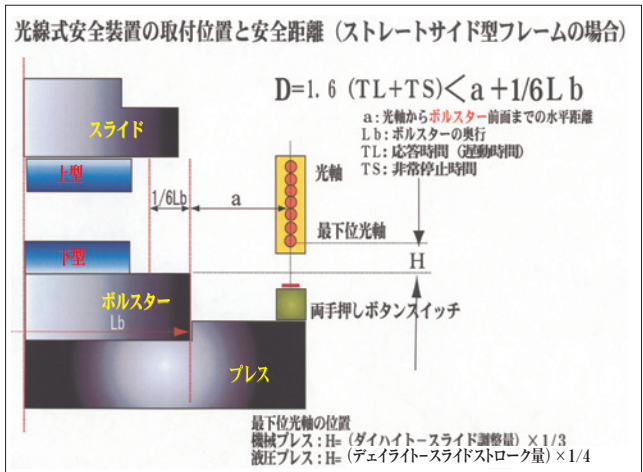


(2) 安全距離の不足に対するリスク

安全距離は、プレス機械の停止性能に対応して決められている。プレスメーカーが製造段階で設定した停止性能に対して、手の速度1.6m/sを掛け算したものである。

$$1.6 \times \text{停止性能（ミリ秒）} = \text{安全距離}$$

安全装置は安全距離が確保されるように取り付ける。プレス機械のクラッチブレーキが劣化してくるとプレスメーカーが設定した停止性能で停止できないことがあり、整備点検し本来の停止時間に戻す必要がある。



※C型フレームプレスの場合、ボルスターの奥行き1/6は加算しない。

(3) ボルスター側面から第三者の身体の一部が侵入するリスク

光線式安全装置の追加や作業に支障がないように側面に固定ガードを設置する。

